



シリーズ

武雄の治水

vol.35

～水と共に生きるまちへ～

NEWS

「防災フェスタ・治水シンポジウム in 武雄」を開催しました

第1部 防災に関する講演会

テーマ『避難所運営を市民と共に～熊本地震で得た教訓～』

講師 Bosai Tech 株式会社 代表取締役 大塚 和典 氏

熊本地震の経験を基に、避難所運営や災害に備えた事前準備の重要性について、実例を交えながら分かりやすくお話しいただきました。



第2部 治水シンポジウム

テーマ『六角川流域水害対策計画を分かりやすく
～治水対策をまちづくりにいかす～』

佐賀大学の大串教授のコーディネートのもとパネルディスカッションを行いました。武雄河川事務所の寺尾所長、佐賀県県土整備部の永松理事、小松市長から、3月末に策定予定の「六角川流域水害対策計画（素案）」の内容について説明がありました。小松市長は、人口減少が加速している時代だからこそ、治水対策でまちを安全にすることと、まちを活性化させることは両輪であるべきだと述べました。また、九州大学の塚原教授、UR 都市機構九州支社の三戸課長もアドバイザーとしてご登壇いただき、近年の水害の傾向や、治水とまちづくりが連携した他地域での事例などの紹介をいただきました。



たくさんのご意見ありがとうございました

- ・水害に加え、地震への備えも考えていく必要性、重要性を強く感じた。
- ・治水事業には時間と予算がかかるので、市、県、国そして地域住民が連携・協力して早期実現していかなければならないと感じた。

会場アンケートより



当日の様子はYouTube
(ケーブルワン公式)で
視聴できます。



アドバイザーを務めていただいた九州大学の塚原教授にお話しいただいた内容を簡単にご紹介します。

河川管理者

河川を管理して水が河川の外に溢れないようにする者

近年どんどん大雨の頻度が上がっていて、大雨の発生確率が3.3倍。
これまで10年に1度だった水害が3年ごとにやってくる。
河川管理者だけでなく、流域全体での治水に舵が切られた。

流域治水

気候変動を踏まえ、あらゆる関係者が協働して
流域全体で行う総合的かつ多層的な水災害対策

では「流域治水」とは？
少し分かりにくい…
でも英訳すると…

**River Basin
Disaster Resilience and Sustainability
by All**

Japan's New Policy on Water-related Disaster Risk Reduction

(国土交通省HPより)

『by All』 = 『みんなで』
災害に強く持続可能な流域治水を

河川管理者だけで治水を抱え込むのではなく、まちの魅力が向上するような都市開発と治水対策を一緒にやっていく必要がある。令和の時代の治水は、まちづくりと一緒に。
ただ、治水事業はどうしても時間がかかるので、住民の皆さんは、水災保険にしっかり加入してほしい。これも流域治水のアクションの一つ。それぞれのアクションを起こしてほしい。



詳しくは まちづくり部 治水対策課 ☎0954-27-7097

シリーズ武雄の治水 バックナンバーはこちらから▶

